# This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

# **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

# IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.



19 14 W

昭和49年 5 月22日

特許疗長官 殿

الحا

4 売用の名称 デカンパンパンパンパンタイセイがいつ 電換酢酸簡単体の製造法

4発明者

テマがオンドコングカッチ 兵庫県尼等市武庫量町2の5の53の303 ハマーダ ヨシ ノリ

浜田 芳 伽 (ほか/名)

3.特許出導人 郵便番号 5年/

大阪府大阪市東区道修町3丁目/2番地

(/92) 拉野觀如果株式会社

代表者 吉 和 一 加

4代 理 人 郵便番号 353

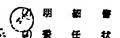
大阪市福島区常州上2丁目4ク番地

准野義製集体式会社特許部(電話06~438-386/)

**弁理士(6703) 岩 崎 光** 



1 添付書類の目録



/選



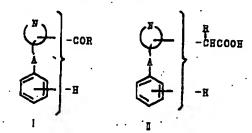
明 細 書

4発明の名称

復換酢酸誘導体の製造法

#### 2.特許請求の範囲

一般式『で表わされる化合物にアルコキシメチレン三炭化水素基置換フォスフォランを反応させて得られる化合物を加水分解しついで酸化して一般式『で表わされる化合物を得ることを特徴とする置換酢酸誘導体の製造法。



(式中、Oはピリジン、ピリミジン、イミダゾール、テトラゾールまたはチアゾールを表わし、R は炭化水素基を表わし、Aは酸素。硫實、イミノ 基または炭化水素置換イミノ基を表わし、Obsよ

## · 19 日本国特許庁

# 公開特許公報

①特開昭 .50-149668

倒公開日 昭 50. (1975) 11. 29

②特願昭 49-58244

②出願日 昭49. (1974) 5.22

審查請求 未請求

(全8頁)

庁内整理番号 5647 44 6762 44 7306 44 た627 40

**砂日本分類** 

/6 E35/ 16 E43/ 30 B4 30 CO 1 Int. C12

COTIDITY/34 COTIDITY/38 COTIDITY/42 COTIDITS/62 COTIDITS/741 AGIK 31/425

び上記ペンゼン環は反応に影響を及ばさない!~3個の置換器を有していてもよくあるいは縮合ペンゼン環または縮合関環を有していてもよく-COR基はこの総合ペンゼン環上にあつてもよい。但し のボチェゾールでない場合は、Aは酸素または硫質を表わす。)

### 3 発明の群都な説明

本発明は置換酢酸 勝事体の製造法に関し、その目的は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む) および鎮痛作用を示し医薬または動物薬として有 用な置換酢酸器等体を得る点にある。

本発明方法の要旨は次式によつて示される。

(式中、Oはピリワン、ピリミワン、イミダナール。テトラゾールまたはチアゾールを変わし、及は酸素、確實、イミノは炭化水素を変わし、Aは酸素、確實、イミノが上記べいを変われていてもよくのの意味を行っていてもよくのの意味を行っていてもよく。
「CCCの高はこの結合ペンゼン環上にあってもよい。」とはアルキル基を変わす。但してかチャゾールでない場合は、人は酸素または硫質を変わす。)

本発明方法は一般式して表わされる化合物をアルコキシメチレン三炭化水素置換フオスフォランと反応させるいわゆるウイティッヒ(Wittig)反応に付し(反応(P))、得られる化合物型を加水分

- 3 -

反応③は化合物ドのアルデヒド基をカルボキシル基に変えるもので一般のアルデヒド基をカルボキシル基に変換する酸化反応に準じて行えばよい。例えば過マンガン酸カリウム。過酸化水素、酸化酸などにより水中または有標溶媒中で酸化してもよいし、硝酸、クロ人酸、希硫酸と過酸化的、または通酸化酢酸などにより酸化してもよい。なお上配反応①、②および③の工程において皮むを受

特別 昭50─149668 (2) 郵に付し化合物がとした(反応②)後酸化反応に 付して目的とする置換酢酸酰等体Ⅱを得る(反応 ③)ものである。

次に本発明方法の実施について詳細に記する。 反応(Dは通常のウイティツヒ反応に従つて行えば よく、種々のアルコキシメチレン三炭化水素産袋 フオスフオラン(例えば、メトキシメチレントリ フエニルフオスフオラン。メトキシメテレントリ (メトキシメチル) フオスフオラン、エトキシメチ レントリプテルフオスフオランなど)が原料化合 物と反応条件に応じて適宜選択し使用される。例 えば、上記フオスフオランにハロゲン化水素が付 加したフオスフオニウム塩を使用し、有機金属( 例えば、フエニルリチウム、プチルリチクムなど) を用いてユーテル類(例えば。ユーテル。ジビニ ルエーテル。テトラヒドロフランなどし中で必要 に応じて加風下で化合物」と反応させるか、ある いはアルカリ金属アルコキサイド(例えば、ナト りクムメチラート、ナトリウムエチラートなど) を用いアルコキサイドと対応するアルコール中で

ける環上の賃券務は各反応の前後に置換基を修飾 することにより、最終において目的化合物を得る ようにすることができる。

かくして得られた化合物』はさらに分離。 精製あるいは製剤化、その他の必要に応じて、適当なアルカリ金属塩(例えば、ナトリカム、カリカムなど)、アルカリ土類金属塩(例えば、カルシウム、マグネシウム、パリウムなど)、その他アルミニウム塩などに常法に従つて変換することができる。

本発明方法の目的化合物である世典 酢酸誘導体及びその塩素は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も合ひ)または厳病作用を示し。 医裏または動物薬として有用な化合物である。

以下実施例において本発明方法の実施類様を示す。

#### 実起例り

粉末にしたメトキシメチレントリフェニルフォ スフオリウムグロライドコミュギリをエーチル スギのおに番覆し、内張ノエ~ユのででメノユs モルフエニルリチウムエーチル溶液60mを譲下 後!5℃で!5分間かきまぜる。ユーフェノキシー5ーアセチルピリジンス!41のエーチル溶液 !40mを30分で摘下後室風で!4時間かきませる。不溶物を沪去し沪線に氷水を注ぎエーチル で抽出する。抽出液を水洗、乾燥投溶媒を留去し 残液!2628をシリカゲルカラムクロマトに付す。ペンゼン/酢酸エチル(30:1)密出部を 鍵圧蒸留すると 知る and y 147~149℃のユーフェ ノキシー5~(1-メチルーユーメトキシビニル) ピリジン5428を得る。

元素分析 C<sub>/3</sub>H<sub>/3</sub>O<sub>2</sub>H として 計算値: C、7 466: H、6.27: H、4.89 実験値: C、7 49 4: H、6.37: H、4.79 IR V CHC43 cm / / 65 8、/59 0 NMH 8(CDC43) /88、/95(3H、d)、/367、 270(3H、B)、6/2、633(3H、Q)

本品 4 4 4 9 を 2 3 塩酸 3 の 4 に加え、窒素気 斑中一夜からまぜた後反応液にベンゼン / の 4 を 入れ窒素気流中温マンガン酸カリウム / 3 9 の水

- 2 -

Ca(nH<sub>2</sub>0): カルシウム塩(n水和物を扱わす) As:アルミニウム塩 d:分解点

(以下余白)

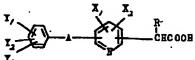
特局 昭50-149 688 (3) 落液 3 0 3 4 2 10 分で接下さらに室温で10 2 10 数を主ぜた機不溶物を护去し炉板を設設水素ナリウムで田3~4 2 してエーテルで揺放で田3~4 2 10 10 4 2 2 10 2 2 10 3 2 2 10 3 2 10

#### 実施例 2

以下実施例!と同様にして下記の化合物を得る。 なお、下記表中で用いられる略号は下記の意味を 表わし、人種において例えばユーロはピリジン環 のユ位がエーテル結合していることを表わし、メ ステアプラはよびと類において例えばダーC4 はクロ ルが母核のダ位を重換していることを表わす。

Me:メチル基 Wet:メトキシ基 Bt:エチル基 iso-Bu:イソプチル基 Ac:アセチル基 An:アニリノ基 CB,-V:シクロプロビルメチル基

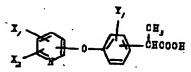
-8-



	T,		- 15					
実施例	E CHCOOR の位置	R - A-	I,	x,	Υ,	Y	Y,	<b>⊅</b> (,C)
2	3	Ne s-0	Ħ	H	H	Ħ	H	/35~/355
3	#	Me 2-0	H	H	#-C\$	H	H	//9~/20d
æ	#	Ne 2-0	H	H	H	H	H	98~994
\$	g.	No 2-0	Ė	H	2-C\$	H	H	107.5~10254
. 6	4	Me 2-0	H	H	3-C4	H	E	84~85d
7	3	¥e 2-0	H	H	Ø-C#	H	H	110~111
8	3	¥e 2−0	Ħ	B	. <b>E</b>	Ħ	H	94~95
,	3	No 4-0	H	Ħ	<b>4</b> -C\$	E	H	114~115
10	2	¥e 6−0	H	Ħ	Ħ	Ħ	H	Ca(2H <sub>2</sub> O)/35~/36
	2	No .9 - 0	H	H	e-CI	H	R	Ca(2H_0)80~8/d
12	#	Ke 2-8	H	H	G-CE	H	Ħ	M64~65
13	4	¥e 2-0	H	H	<b>#</b> Met.	B	H	129~130d
14	#	Me 1-0	H	H	<del>4-10</del>	H	H	101~102d
15	3	No 6-3	H	H	H	B	Ħ	1145~11\$5
16	3	Me & → 0	Ħ	H	<del>v k</del> o	H	_	98~99
17	#	Me 2-8	H	H	Ħ	H	H	Ca(36H20)/#0~/#/
18	3	No 6-0	H	H	# Wet	H	H	Ca(/H 30) /35
/7	#	Et 2-0	H	H.	#-C#	H	Ħ	92~93
20	3	Me 9-0	Ħ	H	3-C#	H	H	106~107
2/		Ye 2-0	H	· H	e-CH	H	H	/05~/06d
22	3	Et 4-0	H	H	#-C8	. <u>-</u>	H	A1236
23	#	Me 2-0	H	B	4-C008	H	. H	15#~/56d
24	4	No 2-0	H.	H	3-CP,	H	H	Ca(2H <sub>2</sub> O)/35~/37
25	3	No 4-8	H	H	#-0XB <sub>2</sub>	. H	H	Ca(H <sub>2</sub> O)/50 /60~/62 / Exem
26	a a	No 2-0 No 2-0	H	H	e~OB ←ove <sup>3</sup>	H	B	200~20/ (発泡) Ca(4日 <sub>3</sub> 0)/87~/89
28		No 2-0	H	H	9-0Ac	H	H	Cal 28,0) /325~/335
29	,		H	H	4-OAc	н	H	
30			H	H	#-OH	Н		Ca(#H <sub>2</sub> O)/#5
1	3		H	H	#-HO <sub>2</sub>	н	H	Ca(H <sub>2</sub> O)203
3/	4	No 2-0						•
32	1	Me 2-0	H H	H	4-HH,	H	H	/32~/33d /#2~/#3d
33	4	No 2-0	-	H	#-NHAC #-NHCOORt	·H	Н	/+2~/+36 /36~/37d
3#	1	Me 2-0	H	ı	- manust	Д	. #	/ 3 6~/ 3 / Q

実施6	の(以) - (3500) B	CH R -A-	x;	X,	1 1,	Y,	Y,	P(C)
35	#	¥e 2-0	H	H	# 1000a	a B	H	206~2088
36	3	. No 6-0	H	H	# Dr	E		119~120
37	#	Me 2-0	H	Ħ		ー ーベンゾ		/35~/374
38	3	Me 6-0	H	Ħ	Ø-C#	H	H	120~121
39	. 3	Me 4-0	4-16	Ħ	H	H	H	135~136
40	3	Mo 4-0	3 Me	Ħ	H	H	H	92~93
41	3	No 4-0	Ħ	Ħ	-2-Me	 3-No		115~116
42	3	. No 9-0	H	H	2-C4	H	B	96~17
#3	3	No 6-0	H	H	<u> </u>	H	H	65~67
44	3	No 4-0	H	H	3-16e	H	H	8/~82
. 43	3	Me 4-0	H	H	3-Me	z-Ne	E	/20~/2/
46	3	Me '4-0	Ħ	Ħ	3-16s	4-Ne	H	90~91
<b>47</b>	3	No #-0	H	Ħ	H	H	H	145~146
#8	3	No 6-0	Ħ	B .	#-150-Bu	H	E.	77~78
<b>49</b>	u	No 2-0	Ħ	H	. <del>2 No</del>	J-Ne	H	86~87d
50	3	Me 7-0	<i>s</i> -¥e	Ħ	H	. н	H	107~108
. 51	3	Me &-0	Ħ	H	.3-16e	s-Me	H	Ca(2H201/95d
5.2	3	He 9-0.	H	Ħ	<del>2 16</del> 0	4-Ke	H.	Ca(2H <sub>2</sub> O)/89d
53	3	No T-O	H	H	<del>2-¥</del> 0	4-No	H	Ca( /5 B 20) 202d
54	4	No 2-0	Ħ	Ħ	<b>3-¥</b> ⊕	4-No	Ħ	123~12#d
55	#	No 2-0	H	H	<i>3</i> - <b>M</b> a	5-No	Ħ	103~10#d
57	3	Ne 6-0	H		. <del>2 1/6</del> ·	3 <b>-1</b> 0	5- <b>M</b> e	128~129
58	3	No 4-0	H	H	3-16	4-No	5-K o	113~114:
39	3	Me 6-0	H					155~156
60	3 3	We 6-0	H		2 ¥0	<b>4-N</b> e		135~136
61	g.	Mo 4-0 Mo 2-0	H		34-( Œ³)		H	CE(K3H,0)/69d
42	u		B					125~1266
43	3	Me 4-0	•		3-Mo (	¢-¥e .		/26~/27d
44	3	Me 4-0			23-( CE <sub>2</sub> )			ट्यां (रस <sup>क</sup> ि) । एक-१९९व
65	3	Me 6-0		H	3#-~			1205~1265
66	3	Me 4-0	. E					/3/~/32
67	.4	¥e 2-0	# 16 5-		B	H		144~143
68	3	No . 4 - 0				H		281/58_012/6~27
69	3		#5-«			H		22~/23
70	3	Me 6-0	M3~(C	4.0	. H		•	5/~/52
			·		#-(CH <sub>2</sub> )	_	H /	225~/235

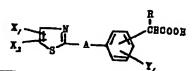
実施例 系	日 - CHC00日 の位置	R	- A -	I,	I,	T,	Y,	Y,	ም("C)
71	3	Ma	6-0	H	H	3-Vet	Ħ.	я	625~705
72	3	Me	8-0	2-Me	9-163	Ħ	H	H	Ca(13H20)2/8d
73			4-0	H		#-OH		H	167~169
7#	3	Mo	4-0	H		<b>%-4</b> 00		H	161~162



実施例	x,	X,	ブエノキシ書 の位置	Y,	R -CHCOOH の位置	<b>₽('C)</b>
75	H	Ħ	2	B	3	76~77
76	Ħ	H	2	H	¥	129~130
77	5-0N	. H	2	H	*	198~200
78	· 2-CONH,	H	2	H	· · ·	2//~2/2
29	H	. <b>H</b>	3	H	4	130~131
80	H	H	<b>#</b>	H	4	180~181
81	34- (	OH,),-	. a	H	¥	166~167
83	34-4	ンソ	2	H.	. 4	145~147
8 3	3-No	a-No	<b>.</b>	H	ų.	1525~156
t a	#-No	s-Ne	2	Ħ		/42~/43
75	. #-Ne	H	2	E	4	123~12#
76	6-Ye	Ħ	2	Ħ	4	
7	3-Br	Ė	2	H	. 4	Ce/H <sub>2</sub> O)273~275
88	2-No	H		R	. 4	137~138
89	5-Mo	H	2	. н	*	152~153
0	3-Me	H	2	B	*	/32~/3#
7 /	H	H	. 2	2-Ye		/2/~/22
ا د ا	H	H .	_	2-Net	. •	107~108
, 3	ж/	H	- 2		4	Ca(#H_0) /58d
	****	-	4	Ħ	¢	136~138

MA S-CHOR COOR

	7 -					
突起例	'Y,	Y,	<b>A</b>	<b>x,</b> .	CE, - CRC00E の位置	ም('C)
9#	H	R	0	4-A.	•	110~111
75	2-No	3-¥•	0	<b>⊈−Me</b>	5	/42~/43
94	3-CF,	H	0	<b>⊄−M</b> e	5	Ca(25H20)/04d
97	<b>⊭</b> −Me	H.	0	<b>4-10</b>	\$	//8.Ca(25H20)/#4d .
98	#-CI	H	0	#-Me	5	93~74. Ca(2.5H <sub>2</sub> 0)/33
79	E.	H	8	4-Me	5	128~130
100	H	Ħ	0	Ħ	5	Ca( //5 H , O) / 69~170d
101	4-C1	H	0	н .	5	Ca(H <sub>2</sub> O)/#5d
102	H	H	NH	4-No	5	/#5d
103	3-07,	H	NH	#-Ho	5	193d
104	Ħ	Ħ	0	H	#	Ca(23H <sub>2</sub> 0)/#2d
105	Ħ	H	0	3−Ne	ø	Ca(23H <sub>2</sub> 0)/#2d
106	4-C4	H	Q	H	#	CB(25E,0)/33~/35d
107	4-04	B	0	5-Ya	4	Ca(25H_0)/3#~/36
.108	Ħ	H	N-No	H		79~80d
. 109	H	H	N-Ne	#−¥o	\$	141~142 .
110	H	H	<b>3</b> −79ル	#~¥e	5	106~107
111	E	Ħ	H-CH,-4	#-Me	5	/20~/2/
1/2	H	H	H-No	H	s	198~200
1/3	H	H	H-792	H	5	/34~/35
114.	E	H	M-CB	H	# .	CB(3H_0)/80~/83
115	H	H	#-CVA	H	•	Ca(H <sub>2</sub> O)/20~/23d
116	H	Ħ	B-794	H	4	Ca(2H <sub>2</sub> O)/73~/78d



英起例	x,	x,	A	T,	-CHCCOH -CHCCOH -CHCCOH	R	<b>₽(°C)</b>
117	H	H	0	H	4	Мо	119~120
18	&-He	s-Ne	0	H	#	.Me	122~12#
19	<b>⊬−M</b> e	H	0 '	H	#	Me	87~88
20	H	H	0	2-¥et	#	Me	Ca(H <sub>2</sub> O)/75d
2/	Ħ	H	0	H	#	アリル	Ca(H,O)/34d
22	· H	E	0	·B	3	Me	88~89
23	H ,	H	H-Ke	H	#	Me	123~124
24	H	H	Hーアリル	H.	<b>4</b>	Жe	118~119
25	H	H	0	H	4	Et	115~116
26	H	H	0	H	4	عوب	121~122
27	Ħ	H	0	Ħ	4	数2	99~100
28	H	H	0	H	#	ЖЗ	111~112
27	. H	H	0	H	#	-CH,-⊲	85~86
30	H	H	0	2-No	4	No	93~94

#2 -CH₂CEOH #3 -CH₂CCH₃=CH₃

- / 4 -

美報例!31~!34

. 実趣例!と即様にして下記の化合物を得る。

ユー(るー! ユーピリジルオキン)ーユーナフ チル]プロピオン酸。中 / タク~ / タおで。

ユー〔4ー(ノーフエニルーノユスダーテトラ ゾリルオキシ)フエニル〕プロピオン酸、甲165 · ~166 C。

ユー〔 4ー(ユーピリ l ジルオキシ)フェニル〕 プロピオン酸、中 / ク 4 ~ / タ 5 ℃。

. ユー〔4ー(ノーメチルーユーペンズィミダゾ イルオキレ】フエニル〕プロピオン酸、甲ノよ & ~ノよらで。 .

特許出版人 拉罗義製媒株式会社

10 巫 人 介理士 岩筍 光閣



ム前配以外の発明者

サカイシサンジョウドオリ 大阪府界市三条通2の s オカ ダ デッ オ 岡 田 哲 ラ



特許法第17条の2による補正の掲載 昭和49年特許顧第58244 号(特開昭 50-149668 号 昭和50年//月29日 発行公開特許公報50-1497 号掲載)については特許法第17条の2による補正があったので 下記の通り掲載する。

庁内整理番号	日本分類
6762 44	16 E351
7306 44	16 E431
5647 44	30 B4
5647 44	30 CO
•	

### 手 装 補 正 書 <del>(意見書に代えて)</del>

19 19 B

昭和 53年 6月 19日

特許庁長官 殿

ル事件の表示 田和 49 年特許顧節 38244 号 2発用の名称

置換酢酸誘導体の製造法

3補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 大阪府大阪市東区道修町3丁目12番地

名称 (192) 复野義製業株式会社

代表者 吉利 一 雄

**从 超 人** 

在所 大阪市福島区党州S丁目/2番4号 塩野 義 製 業 株 式 会 社 特 許 部

(曾転の人-4キオーキタム!)

氏名 会现士(6203),岩 崎 光

- 4 拒絶理由通知の日付・昭和 - 年 -

9-1

#### よ補正の対象

**卵細書の発明の詳細な説明の傷** 

#### ム補正の内容

(1)明細書8頁//行目の「実施例2」を「実施例2-/30」に訂正する。

(2) 関書 / 2 夏実趣例 8 7 の X / 棚 の 「 3 - B r 」 を 「 5 - B r 」 に 訂正する。

(3) 同書 / 3 頁の実施例 / 3 / ~ / 3 4 の次に下記の実施例 / 3 5 ~ / 6 9 を追加する。

「実施例/35~/69

実施例 / と同様に反応操作し、下記の化合物を 得る。

(以下余白)

لالنتظ

実施例	Υ,:	Y,	<b>\$</b> P(℃)
135	2-Me	H	150~151
136	3 – C 4	H	98~99
137	2-C4	H	145~146
138	3 - C &	5-C1	127~128

実施例 系	. у	Ж	ቝ (°C)
139	i-Pr	3	89~91
140	Pr	3	815~825
141	t—Bu	3	112~113
142	∎Bu	3	67~71
143	Bu	3	Ca.H <sub>2</sub> O/40~/42
144	i—Ba	3	Ca //4~//9(4)

### ※ プロピオン酸残差の電換位置





突起的	X	Δ	Y,	Y,	<b>\$</b> (℃)
145	H .	0	2-Mo	H	120~121
146	B	0	3-C#	· H	115~116
147	н	0	2-C#	H	86~87
148	H	N-Me	3-C#	H	Ca : 4H <sub>2</sub> O /75~/78
149	н	8	н	н	85~87
150	H	0	2-04	3- <b>M</b> 0	147~148
151	H	0	3-F	H	107~108
152	H	0	2-Me	5-C#	130~131
153	H	NH	3-C#	H	144~143
154	4-Me	NH	2-01	H	185~188
155	Ψ-Mo	NH	3-F	H	163~164
136	<b>γ-M</b> e	NH	2-F	Ħ	202~204.
157	H	NH	2-F	H.	190~1915
158	Ħ	NH	3-01	5-C4	177~178



159	# Mo	N-Me	3-C#	3-01	138~139
160	Ψ-Mo	NH	3-Mo	H	20/~202
161	H	N-Mc	3-C#	3-C4	180~181
162	H	N-Me	2-F	Ħ	111~1125
163	н	0	2-F	Ħ	74~75
164	н	NH	3-¥	H	160~161
163	H	N-Me	2-Me	H	165~166
166	H.	N-Me	3-P	н	98~100
167	Ħ	NH	2-C#	Ħ	174~175
168	H	NH	2-Me	н	160~1615
169	H	N-Me	2-C4	Ħ	141~142

各表中の略号は以下の意味を表わす。

i-Pr:イソプロピル基 Pr:プロピル基 t-Bu:tーブナル基 s-Bu:seo-ブナル基 i-Bu:イソブナル基。その他の略号は節記の 意味を表わす。

EL L